

第 Ⅲ 部

大洋村におけるポニー活動事業

深 野 聡

大洋村におけるポニー活動事業

深 野 聡

(社団法人 東京乗馬倶楽部)

1 大洋村について

大洋村は、茨城県南東部の鹿島郡に属し、東は太平洋、西は北浦に面した、自然美に恵まれた村である。年間を通じての温暖な気候と肥沃な土地に恵まれていることから古くから農業が盛んであり、にんじん・さつまいも・メロン・イチゴ等の栽培が今日では盛んである。

村の人口は11,053人(平成12年国勢調査)であるが、少子高齢化が非常に進んでおり、65歳以上の人口2,759人に対し、15歳未満の人口は1,457人となっている。

村内の各学校と在籍する子どもたちの状況については表1のとおりである。

表1 【大洋村の各学校の状況】

学 校 名	児 童 生徒数	学 級 数		
		普 通	特 殊	合 計
白鳥東小学校	186	7	2	9
白鳥西小学校	153	6	1	7
上島東小学校	204	7	1	8
上島西小学校	56	5	—	5
小 学 校 計	599	25	4	29
大洋中学校	351	11	2	13
つばさ幼稚園	118	6	—	6

(学校基本調査 平成13年5月1日現在)

2 ポニー活動事業に至るまで

村では基幹産業である農業の活性化を図るため、有機農業に関する調査を以前から始めており、農地の地力回復に重要な役割があるとされる堆肥の中でも、馬糞堆肥に優れた効果があることにいち早く注目していた。

また、自然が多く残されている地域特性をうけ、村内において馬を飼育し、農業に留まらず、教育・福祉といった行政の関わる幅広い領域において、馬の特性を活かし、地域づくりに役立てる可能性を探るべく、平成8年度より日本各地の行政における馬の活用事例の調査を行ってきた。

この結果、馬事に関する事業を行うにあたっては、馬の中でもより体格の小さなポニーで開始したほうが安全性、金銭面の負担といったリスクが少なく済むという結論に達した。

こうした状況を受け、平成10年4月より村の健康増進

施設『とっぷ・さんて大洋』の敷地内にポニー広場の整備を開始し、同年6月に、『たいよう馬の杜』としてポニー事業を開始するに至った。

【ポニー活動事業のねらい】

飼育・乗馬といったポニーとの素肌でのふれあいを通じて、施設を取り巻く自然環境と村の人々の営みを体験することにより、青少年の豊かな人間性の確立を導き、動物・自然愛護の精神と郷土愛を育むことをもって青少年の健全育成を図ることを目的とする。あわせて、馬糞堆肥を利用した農作物のシンボリック的存在としての地域産業のイメージアップと、馬事振興による総合的な地域づくりを期待する。

【本研究との関連】

馬を教育に活かすとはどのようなことかについて担当者が具体的に知るとともに、村民に知ってもらう機会として平成8年1月、笹本 健、滝坂信一両氏(国立特殊教育総合研究所肢体不自由教育研究部)及び高橋公正氏(芝山カントリーファーム)に依頼し、村内在住の障害のある子どもの体験乗馬会を実施した。

さらに、ポニー活動事業を開始するにあたり、内容面、実施上の工夫や配慮に関し国立特殊教育総合研究所肢体不自由教育研究部に支援を求めた。具体的には、教育委員会担当者、村内の保育所、小・中学校の校長、教頭及び教務主任を対象とした講義、ポニーを用いての研修会研修会を行った。平成11～13年度には研究協力機関となり、研究フィールド及び実施資料を提供した。

【大洋村のポニー活動事業の目標】

- (1) 青少年を対象とした各種ポニー体験事業の実施
- (2) 馬糞の農地還元と余剰農作物の活用のシンボル
- (3) 馬を仲立ちとしたボランティア活動の推進
- (4) 総合的な村のイメージアップ

3 施設の概要

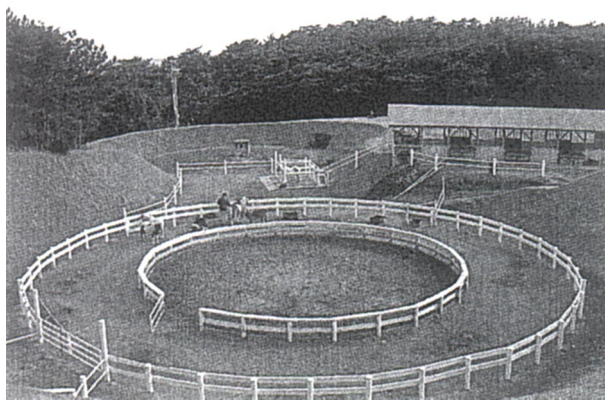
『たいよう馬の杜』の主要施設は、前出の『とっぷ・さんて大洋』の敷地内にあった調整池等の既存の地形を活かしながら整備された。

写真1に見られる柵などの主要な工作物は、村職員をはじめ村内・外から集まったボランティアが中心となって手

作りで製作したものである。

なお、飼育しているポニーと施設の概要については下記の通りである。

写真1 【たいよう馬の杜・施設全景】



中央が丸馬場と引き馬コース。その奥が洗い場と馬小屋

表2 【ポニーの概要】

名 前	生年月日	性別	毛 色	体高(cm)
ク リ シ ン	H 1. 7. 31	雌	葦 毛	115
メ ロ ン	H 3. 4. 2	雌	ゴールドダン	120
オ レ ン ジ	H 3. 5. 5	雄	黒 ブ チ	107
レ モ ン	H 3. 3. 3	雄	茶 ブ チ	105
アプリコット	H 3. 5. 30	雌	茶 ブ チ	105
チェリー	H 11. 7. 31	雌	栗 毛	103

※ 平成14年3月1日現在

※ 雄についてはすべて去勢済み

【施設の概要】

- ・馬 小 屋 1 棟 (管理人部屋含、66㎡)
- ・馬 洗 い 場 1 面 (2 頭用)
- ・調教用丸馬場 1 面 (R=7.5m)
- ・円形引き馬コース 1 面 (丸馬場外周、全長70m)
- ・放 牧 場 1 面 (約400㎡)
- ・馬 運 車 1 台 (2 t 積、ポニー 4 頭輸送可能)

4 活動状況について

『たいよう馬の杜』のポニー活動事業については2つの事業形態があり、子どもたちに自転車やバスなどの方法によって施設まで来てもらい、厩務作業も含め本格的な体験活動を行うものと、ポニーを馬運車に乗せて学校等へ派遣し、ポニーとふれあうことを中心に活動するものである。

対象は基本的に村内の子どもたちとしており、幼稚園児から中学校生徒まで、最低でも年1回はポニーとふれあう

時間が作れるよう年度当初に各学校と事前協議を行い、年間の事業計画をたてている。

また、活動時の指導スタッフとしては、村職員とポニーの飼育作業を支援している村のお年寄りがあっている。

表3 【たいよう馬の杜活動状況】

年 度	事 業 回 数	のべ参加者数
平成 10 年度	38	2,441
11 年度	65	3,153
12 年度	41	2,015
13 年度	51	2,525
累 計	195	10,134

※ 平成10年度は、6月22日～平成11年3月31日

※ 数値は村外へのポニー派遣時を含む

写真2 【学校での活動風景】



グループに分かれて活動する

5 体験活動の内容

体験活動の内容については、たいよう馬の杜の施設（以下「施設」）で行う場合と、ポニーをどこかに派遣して行う場合とで若干の相違があるが、おおよそは表3で示した活動を、参加人数、子どもの体格、活動時間等を考慮し組み合わせている。

1回の活動については、1時間から2時間程度としており、参加する子どもの数については、スタッフの都合から40名程度までを限度としている。ポニーの乗せる人の目安としては体重50kgとしているが、体格の大きい子どもはほとんどがオーバーしてしまうので、その場合は大きなポニーに多少無理をさせてに乗せてしまったり、馬を牧場から借りてきて実施した（大洋中学校にて実施）場合もあった。

なお、学校の体験事業では、各学校の学年ごとに活動を実施するが多い。

表3 【主な活動の内容】

活動の名称	活 動 の 内 容
え さ や り	ポニーにニンジン等のえさを与える。包丁を使って食べやすい大きさにカットするところから始める場合もある。
ボ ロ 取 り	馬小屋や放牧場に落ちている馬糞（ボロ）を熊手とてみを用いて掃除する。（写真2）
ブラッシング	ポニーの体にブラシをかけてきれいにする。場合によっては水洗いを行うときもある。（写真3）
蹄 掃 除	蹄の裏に詰まっているボロや砂等を掃除する。脚を持ち上げる人と掃除をする人に分かれて行う時もある。
引 き 馬	自分の引き綱を持ち、ポニーを引いて歩く。規定のコースを歩いたり、放牧場からの移動等を行う。
乗 馬 体 験	引き馬されているポニーに乗る。慣れてきた場合は、速歩を入れるときもある。
調 教 体 験	丸馬場内において、ポニーの調教活動を体験する。（写真4） ※ 施設での事業に限る

写真3 【ボロ取りの様子】



放牧場に落ちている、ボロ（馬糞）を道具を使って拾い、ビニール袋に入れる

【体験事業の活動内容モデル】

○ 施設で行う場合（2時間）

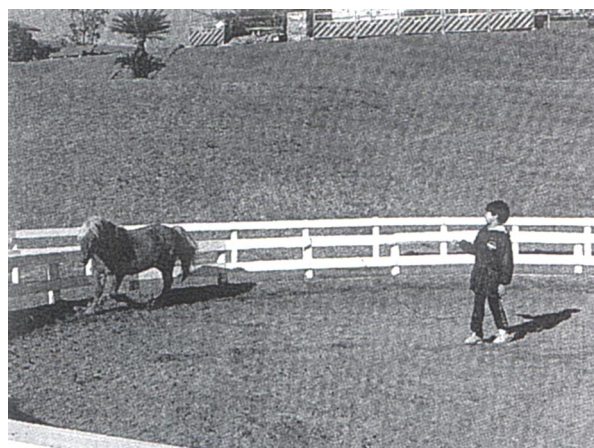
あいさつ → 活動の説明とグループ分け（5分）→ 引き馬（ポニーの移動）と活動準備（10分）→ ボロ取り（15分）→ ブラッシング（15分）→ 蹄掃除（15分）→ 乗馬体験（45分）→ えさやり（10分）→ あいさつ

写真4 【ブラッシングの様子】



繋がれているポニーの体を、小さなブラシを使ってきれいにする

写真5 【調教体験の様子】



追いムチを使って、馬を丸馬場の中で運動させる

○ 学校で行う場合（1時間）

あいさつ → 活動の説明（5分）→ 引き馬（馬運車から出してつなぐ）と活動準備（5分）→ ブラッシング（10分）→ 乗馬体験（25分）→ えさやり（5分）→ 引き馬（馬運車に乗せる）と片付け（5分）→ あいさつ

6 ポニー体験学習

『たいよう馬の杜』の活動の中心となっているのが、平成10年の事業開始時から行っている村内の各学校を対象とするポニー体験学習である。

事業の捉え方としては、各校で表現の仕方に多少の違いはあるものの、ポニーとのふれあいを通じて情操を豊かにする部分を最も期待している。

(1) ねらい

ポニーとのふれあいや、乗馬、飼育活動等の各種体験を通して、動植物を愛し自然を大切にする心、友達を大切に協力し合う心、自己を見つめ自立する心を育てる。

【期待している内面的なステップ】

子供たちが自ら進んで、ポニーの世話や乗馬を行い、ポニーの性質や行動のパターンを知る。



ポニーとのふれあいで必要な約束、知識、技術を得る。



ポニーが嫌がる、危険な状態になる自分の行動を規制し、ポニーとのふれあいの質を高める。



「自分で考え、自分で判断する」規範を身に付け、これからの生活に役立てる。

【期待している気持ちの変化】

活動前の気持ち

馬は、
 ・怖い
 ・大きい
 ・臭い

存在である。



活動後の気持ち

馬は、
 ・かわいい
 ・目が大きい
 ・後ろは危ない

存在である。

気持ちの変化から、ポニーとの距離を近づけ、生き物に感情、意思があることを知る。

(2) 実施の方法

実施するにあたっては、各校の教務主任が連絡会等の場面で調整を図り、日時が重ならないように配慮しつつ予め学習計画案を作成する。事業の配当時間についても、すべて学校に任せており、扱いの仕方も生活科、理科、学校行事等様々である。

村では、各校から寄せられた計画案を元に最終的な調整と事業計画をたて、それぞれの参加者の体格や時間に応じて学習内容を組み立てていく。

事業の形態は、施設に近い白鳥東小学校については、施設で体験学習を行い、その他の学校についてはポニーを学校へ派遣して行った。

(3) 平成13年度実施状況

○ 白鳥東小学校（7回）

実施日	対象学年	人数	場所
5月11日	特殊学級	5	施設
6月11日	特殊学級	5	施設
7月17日	特殊学級	5	施設
10月11日	4年生	33	施設
10月26日	特殊学級	5	施設
11月22日	特殊学級	5	施設
12月18日	特殊学級	5	施設

※ 1、2、3、5、6年生については雨天等により中止

○ 白鳥西小学校（6回）

実施日	対象学年	人数	場所
7月10日	1年生	30	学校
10月3日	2年生	24	学校
11月20日	4年生	22	学校
11月26日	3年生	23	学校
1月15日	5年生	23	学校
1月30日	6年生	30	学校

○ 上島東小学校（5回）

実施日	対象学年	人数	場所
6月25日	1年生	30	学校
7月2日	2年生	40	学校
9月26日	3年生	22	学校
10月12日	4年生	40	学校
11月8日	5年生	27	学校

※ 6年生は雨天のため中止

○ 上島西小学校（5回）

実施日	対象学年	人数	場所
6月28日	1～4年生	45	学校
10月2日	1～3,5,6年生	45	学校
10月25日	1～6年生	56	学校
2月7日	1～6年生	56	学校
2月27日	1～4年生	44	学校

○ 大洋中学校（2回）

実施日	対象学年	人数	場所
2月26日	1～3年生	—	学校
3月7日	1～3年生	—	学校

※ 休み時間中に自由にさわられるようにした

○ つばさ幼稚園（4回）

実施日	対象学年	人数	場所
6月18日	年長	50	幼稚園
6月19日	年少	50	幼稚園
7月9日	年少	56	幼稚園
2月22日	全児童	56	幼稚園

つばさ幼稚園から大洋中学校まで、平成13年度は29回の体験事業を実施してきたが、雨天等により一度延期になってしまうと学校の行事の関係から再び日時の計画をたてることが困難になってしまい、結果的に6回が未実施のままで年度末を迎えている。

写真6 【白鳥西小学校での活動風景】



校庭を乗馬で歩く。二人一組となり乗り手と引き手を交代しながら行う

表4 【活動内容と子どもたちの様子】

活動内容	子どもたちの様子
あいさつと注意	<ul style="list-style-type: none"> ・素直に聞く ・こちらの言ったことを繰り返し話す ・喋りつつける ● <u>気づいたこと</u> ・ポニーの後ろに行ってはいけないという約束が興味深そう ・注意点は良く覚えている。しかし行動につながらないケースもある ・回数を重ねるにつれ、「なぜそのことを注意しなければいけないのか」という質問が出る ● <u>留意点</u> ・2回目以降の事業についてはこちらから注意点を子供たちにきく
(ニンジンやり)	<ul style="list-style-type: none"> ・口と舌の感触に驚く ・怖くてニンジンをとす ・友達に譲ってしまう子 ● <u>気づいたこと</u> ・「食べていいか？」と聞いてくる ・男の子の方が怖がる子が多い ・「何故好きか？」と質問する ・「他に何を食べるか」と聞いてくる ● <u>留意点</u> ・高学年には自分たちでニンジンに切らせる ・ニンジンの切り方により手で握るものと手に乗せるものに分ける

活動内容	子どもたちの様子
ポロ取り	<ul style="list-style-type: none"> ・くさい、くさいと騒ぐ ・自分から進んで活動する ・ポロを転がして遊ぶ ・1つ1つ確実に拾っていく ・おおざっぱに掃除をする ・喋ってばかりいる ● <u>気づいたこと</u> ・周りに注意する子が現れる ・くさいくさいという割には楽しんで作業をする ・馬糞の状態を、「大きい」、「柔らかい」、「新しい」等と叫ぶ ・回数を重ねるにつれ、要領がよくなり、早い時間で同じ作業を終えることができるようになった ・事業後の絵や感想文にポロ掃除のことを書く子が多い ● <u>留意点</u> ・ポロは肥料になると説明する ・小さめの作業道具を用意している
ブラッシング	<ul style="list-style-type: none"> ・こわごわやる ・「どこが気持ちいい」と馬に聞く ・力強くブラシをかける ・いつまでもブラシをかける ・気持ちいいと頬擦りする ・ポニーの顔をみつめる ・ブラッシングの上手な友達にすぐ交代しようとする ● <u>気づいたこと</u> ・ポニーの体があったかいことに気づく ・力の入れ方が難しそう ・ポニーが自分の方を向いてくるとびっくりする ・肌触りを楽しんでいる ・毛が抜けることが興味深そう ● <u>留意点</u> ・両手で馬にさわると指導する ・ポニーと仲良くなるためには、ブラッシングが重要であると指導する
蹄掃除	<ul style="list-style-type: none"> ・脚が持ち上がらない ・ポニーが動かす脚にびっくりして手を離す ・どうしたらよいか戸惑う ・こわごわ脚に触ったり、蹄を掃除している ● <u>気づいたこと</u> ・蹄の裏を観察している ・「掃除して痛くないのか？」と聞いてくる ・脚を持ち上げることは難しいが、回数を重ねるうちに上手になってくる ● <u>留意点</u> ・脚が上がらない場合は、スタッフが協力したり二人一組で行う。 ・掃除にしゃがみこんでしまうことがあるので注意する

活動内容	子どもたちの様子
引き馬	<ul style="list-style-type: none"> 思い通り歩かないポニーに困惑 ポニーのそばに近づけない 手を振ったりして何とかポニーに意思を伝えようとする 他の人をお願いしてしまう 首ごと捕まえて力づくで動かす ● <u>気づいたこと</u> 引いているポニーを名前呼び、愛着がわくようである 待っている子からいろいろかけ声が入る 引き綱を引きずる場合が多い 回数を重ねるにつれ、ポニーが草などを食べて言うことを聞かないときに、無理に動かそうとするのではなく、まずは様子を見るようになった ● <u>留意点</u> 引き綱を持てばその人がポニーの主人であると指導する
(ポニーに乗る)馬	<ul style="list-style-type: none"> こちらの指示どおり上手に乗る ドスンと元気よく座る 自分ひとりで乗れない 念入りにポニーに挨拶をする 乗る場面にきて怖くなってくる 乗り方を忘れてしまう ● <u>気づいたこと</u> ポニーとの挨拶を忘れることが多い、乗る行為に集中してしまう 重くてかわいそうだという あぶみを気にする人とそうでない人がいる ● <u>留意点</u> 乗れない場合には手伝うよう指導 必ず乗る前後にポニーに挨拶するよう指導
(乗って歩く)馬	<ul style="list-style-type: none"> 自然と笑う顔になることが多い 何も喋らずに下を向いている スタッフに話しかけてくる ポニーの首の辺りをなでる 辺りを落ちつかなそうに見渡す ハンドルにしがみつくと 全身に力が入る 体が揺られつられふらつく ● <u>気づいたこと</u> 前かがみになり下を向いている子が多い 周りの友達に手を振っている 待っている友達から「どんな感じ？」と声を掛けられる 普段よく喋る子は言葉の数が更に多くなり、静かな子は何も言わなくなる。 複雑な揺れにびっくりしている 自分が感じたことをそのまま言葉にしている ● <u>留意点</u> 前を見るように指導し、自分でバランスを整えさせる 発進時に出発してよいか乗りに確認する 乗りがリラックスできるよう声をかける

活動内容	子どもたちの様子
(乗って速歩をする)乗馬	<ul style="list-style-type: none"> 「怖い」、「こえー」と連発する 上手にきれいな姿勢で乗る スピード感に驚く ハンドルにさらにしがみつくと 気持ちの余裕がなくなる ● <u>気づいたこと</u> 周りの友達が、乗り手が揺れている様子を見て笑う 「落ちちゃう」と叫ぶ割には、自分でバランスをとっている 慣れてくると「もっと長く」、「もっと速く」と要求してくる 駆歩がもっと速いことを説明すると、「これ以上ゆれるのか!？」と聞いてくる 自分は速歩をしなくていいとスタッフに伝える人もいる ● <u>留意点</u> 歩きの変換時には乗りの確認を取り、スムーズに変換するよう心がける 乗りの様子に合わせ、速歩を入れるか入れないかを判断する
(ポニーと歩く・サポートをする)乗馬	<ul style="list-style-type: none"> 乗っている子に声をかける 後ろの方でとぼとぼ歩く ポニーの顔から離れて歩く 馬の様子を気にしないで歩く ● <u>気づいたこと</u> ポニーの歩く速さを気にしないことが多い 歩き終わると無造作に引き綱を離してしまう 乗りの希望に合わせ、立ち位置を変えたり、歩く速さを変えたりしている ● <u>留意点</u> 乗りと二人一組となり交代して行うようにしている 引き綱を必要以上にたるませないようにし、次の人に渡すよう指導する
(ポニーの紹介)他	<ul style="list-style-type: none"> 名前を連呼する 間違えて覚える 音で聞いても覚えていない ● <u>気づいたこと</u> なぜその名前なのか由来を聞く子が多い 自分たちなりの呼称をつけてしまう ● <u>留意点</u> ポニーの性格や特徴も合わせて説明する
(えさの紹介)他	<ul style="list-style-type: none"> 初めて見る馬のえさに驚く えさを興味深そうにさわる 食べれるか聞いてくる 「〇〇は食べないのか」と聞いてくる ● <u>気づいたこと</u> どのくらいの量を食べるか聞いてくる 「おいしいのか」と聞く ● <u>留意点</u> 可能な場合は飼いつけも行う

活動内容	子どもたちの様子
(準備・後片付け)その他	<ul style="list-style-type: none"> 進んで手伝う 文句を言いながら手伝う 手伝う気はあるが出遅れる 道具を見ながらこれは何に使うと判断しつつ運ぶ ● <u>気づいたこと</u> ほとんどの子が嫌がらずに活動している 駆け足で荷物を運ぶ子が多い 馬糞に近いもの（馬糞を入れる袋、てみ等）は人気が低いが、必ず自分から運ぶ子が出てくる ● <u>留意点</u> 全員で協力し、すばやく終わらせるようにする

(4) 工夫したこと

【事業開始初期】

平成10年の事業開始時は、ほとんどの子どもたちにとって馬（ポニー）と関わるのは初めてのことであり、ポニーを目の当たりにして「大きい」とか「怖い」というように反応することが予想された。

そのため、子どもたちにとって第1回目となる体験活動では、活動の最初にニンジンを食べさせたり、ボロ掃除を行う場面を比較的ゆったりととることで、ポニーについて考え、生きた動物であることを強く印象付けさせる時間となるよう心がけた。そしてブラッシングなどの一連のポニーに関わる活動をした後に、引き馬による体験乗馬を行い、ポニーと過ごす時間の楽しさを強く感じてもらい、ポニーとの心理的な距離を近づけるように計画した。

その結果、ポニーにさわれない、乗れないという子どもを、年間を通じて1、2名に程度に抑えることができた。

また、ポニーに近づいてさわると、ポニーに乗るときには必ずポニーに「よろしくね」と手で軽く首を叩き、挨拶をするようにと指導した結果、ポニーに対して自然に挨拶ができる子どもが増えたと同時に、挨拶の際、スタッフに対して「ポニーの機嫌はどう？」とか、「怖くない？」と会話のきっかけとなる言葉も発せられるようになった。

これらから、ポニー、スタッフともすんなりと子どもたちに受け入れてもらい、2回目以降の体験は、よりスムーズに行えるようになった。

【事業の組み方】

2時間から1時間という限られた時間の中で、子どもたちにいかに集中力を持続しつつ、ポニーと過ごす時間を楽しめると考えのもと、「待つ」時間ができるだけ発生しないように心がけた。

具体的には、多人数で活動しているときは、ボロ掃除をする班と、ブラッシングをする班にわかれ、時間によって入れ替えたり、乗馬の待ち時間中に引き馬の練習をさせる

などである。

また、年に1、2回の活動であっても、回数を重ねるにつれ子どもたちのポニーに対する緊張が薄れ、ポニーの後ろを気にせず通る、わざとポニーの嫌がる行為をしてみる、乗馬の際挨拶を忘れるなどのことが活動中見られた。

このため、活動の開始時には必ずポニーと関わる時の注意事項を確認すると同時に、ポニーはおとなしいが安心してはいけないということ、ポニーの体格の大きさやその性質から不幸にも事故が起こる可能性もあることを説明した。また、乗馬しているときにも、ハンドルから手を離してみる、目をつぶってみる、手を真横に広げ体をひねってみるなど、技術的難易度を少しずつ上げ、子どもの興味が増す内容となるよう心がけた。

【活動場所に対して】

施設で活動する際のメリットは、馬に関わる多様な活動が比較的安全に行えるということと、馬が日常を過ごしている場所と言うことで、子どもたちがある意味よそ者の状態になり、より緊張感が生まれてくることである。

このため、平成10年の事業開始時には、可能な限りバスを運行することで施設での活動を多く用意し、子どもたちがポニーとの関わりで必要なルールを印象深く吸収できるよう心がけた。

一方、学校で活動する場合は、子どもたちが安心して活動できるように、ポニーを安全につないでおくことが求められた。

これに対しては各学校の校庭に必ずあった鉄棒を活用し、コーンで仕切りをつくることで対応した。

写真7 【学校でポニーを繋ぐ】



コーンを使って1頭ごとにポニーを仕切る

(5) 体験学習に関する反応

年度末に各校の先生方に集ってもらい意見交換会を行い、ポニーと一緒にいるときの子どもたちの感想と、先生から眺めて感じたこと、日常の学校生活との相違点等につ

いて感想を聞いた。

子どもたちから

- ・楽しかった
- ・面白かった
- ・怖かった
- ・かわいかった
- ・高かった
- ・大きかった
- ・暖かかった
- ・目が大きかった
- ・馬と仲良くなれて嬉しい
- ・馬も怒るし、怒ったら噛まれる
- ・後ろは危ない
- ・脚を持ち上げるのが自分には難しい
- ・急に動くことがある
- ・肌触りがいい、きもちいい
- ・思ったようには動いてくれない
- ・嫌がることはしてはいけない
- ・馬も性格が違う

先生から

- ・大半の子どもたちが真面目に、注意力を持って活動していたように思われる。
- ・大型の動物にも関わらず子どもたちはすんなりと受け入れていた。
- ・楽しんで活動している様子で、いい笑顔を見せる。
- ・ポニーへの理解、愛着が深まった。
- ・乗馬の待ち時間をなんとかしてほしい。
- ・同じ活動の繰り返しではなく、今後は更なる変化が必要だ。
- ・ポニーではなく大きな馬にあこがれているようだ。また、男子は駆歩をしてみたそうだ。
- ・裸馬に乗せてもらって初めて子ども達が笑顔を見せる理由が分かった。
- ・慣れてくると不注意な行動が出てくるようだ。
- ・ふれあい活動の種類をもっと充実させてほしい。
- ・雨天の場合は中止になってしまうが、子どもたちは雨でも「ポニーどうしているかな」と気にしている様子が見られた。雨が降っても何か活動ができないか。
- ・施設での活動をもっと行いたい、移動手段の確保が難しい。

(6) スタッフが感じたこと

ほとんどの子どもたちにとって、年に1、2回。しかも乗馬に関して言えば1回につき1分程度という体験学習であったが、すべての子どもたちが回数を重ねるにつれ、自分とポニーとの距離を縮めることができているように感じる。

これは、子どもたちがポニーとの活動で注意すべき点を

聞いた上で、実際の体験を通じて気をつけなければいけない約束事を肌で感じているからであると思われる。

また、これまでの事業回数を重ねるうちには、ブラッシングの際に噛まれたり、足を踏まれたりする事故が、怪我をするまでには至らなかったものの数回発生した。本来ならスタッフとして未然に防ぐべきことであるが、その場面に直面したときの子どもたちの反応が、ただ驚くというものから、「なぜ噛まれたのか」、「自分が問題ある行動をとらなかったか」というように、事故の原因、背景についても考えるようになり、子どもたちが受けるショックが軽減されてきたように感じた。このような変化も、この体験の場を通じてポニーの特性が子どもたちに理解されつつあるということではないだろうか。

(7) 今後の課題

子どもたちとポニーとのふれあいの質を高めることが今後も第一に求められていくが、これまで回数を重ねるにつれて子どもたちの知識と能力が向上し、これまで以上に乗馬的な技術指導を取り入れないと物足りないような言葉を見せる場面が出てきたり、体格的に大きくなるにつれ、ポニーだけによる事業では物足りない様子が出てきた。

また、生き物を扱う都合上、ポニーをいい状態で管理する能力とそのためスタッフのスキル向上も今後更に求められていく。

問題点

- ・スタッフ数の不足から、同時に複数のポニーを動かすのが困難。
- ・体が大きい子どもたちには、ポニーが小さい。
- ・常に危険性が伴う活動なので、安全面への更なる配慮が必要。
- ・施設での活動を希望したときは、移動手段の確保が困難。

7 特殊学級における取り組み

『たいよう馬の杜』の事業開始時より、乗馬や厩務作業を各学校の体験学習として行っている中でポニーと過ごす時間に、子ども達の活動意欲や自立した行動を促す力を高める効果があることをうかがうことができた。この事業を開始する当初から、村内小学校に在籍する障害のある子どもの教育にポニーを活用することを重要な柱とした。内容として、単にポニーに乗るということを行うのではなく、ポニーのいることに伴う作業や世話の実施を含め、総合的な体験型の学習機会ととらえて展開してみることを試行することになった。これらについては、必要に応じ国立特殊教育総合研究所と協議したり経過の資料を提供することにした。また、近年日本各地でも障害のある子どもたちに対して馬を用いた指導が効果をあげているという報告をうけ、

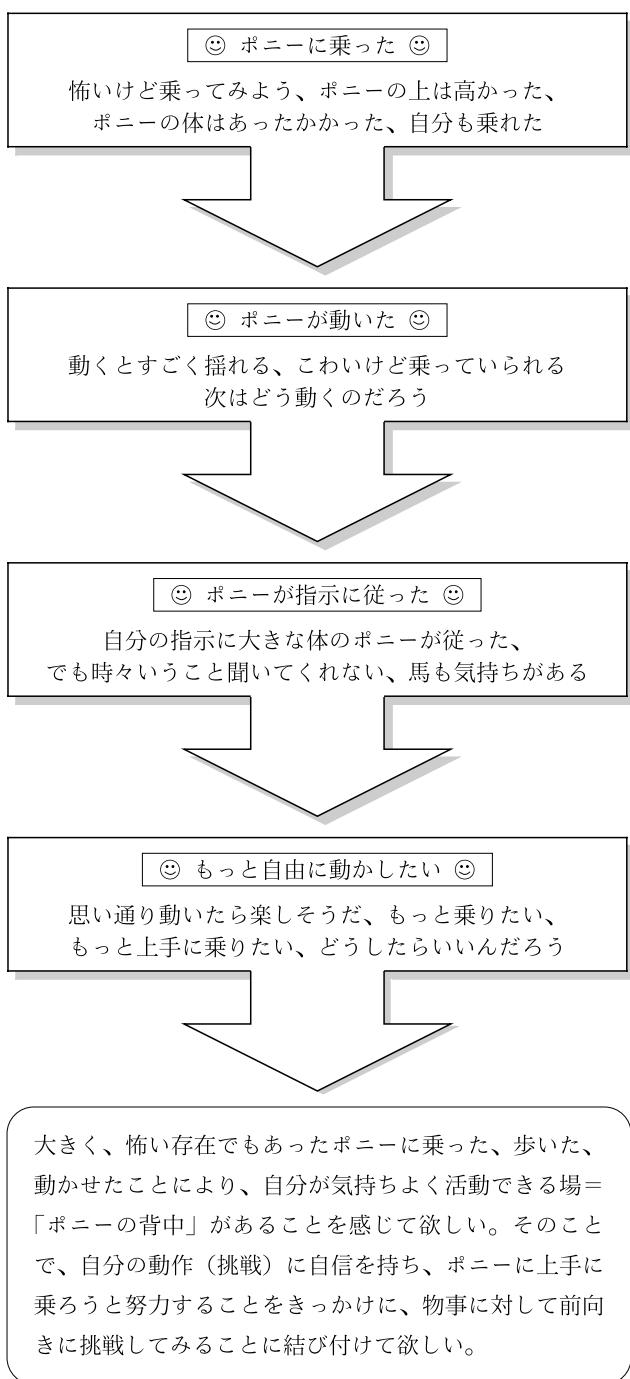
本村においても特殊学級の子どもたちに対してポニーを用いた指導の時間を設け、定期的、継続的に行うことで子どもたちの本来持っている力を伸ばす助けになればという願いのもと事業を開始するに至った。

(1) ねらい

村内の特殊学級に在籍する子どもたちは自閉的傾向、知的発達の遅れ等がみられ、対人関係、社会性、コミュニケーション能力に困難がある。

このような参加者の状況から、以下のことを期待した。

【期待する気持ちの変化】



特殊学級を対象とした事業は、活動の多様性と子どもたちの安全性の確保の点からすべて施設において実施することにした。

事業の参加者数は、1回について3～6名と少人数であったので、ワゴン車により子どもたちと先生を乗せ送迎することが可能であった。

活動内容については、基本的に体験学習の施設における事業と同じであるが、参加する子どもたちの数が少人数であるため、ボロ取り等の活動時における一人あたりの作業量は非常に大きくなっている。時間については、送迎の時間も含め2時間半から3時間程度とし、通常よりも長めに設定することでゆったり活動ができ、途中で休憩の時間を随時入れることができるよう配慮した。

【活動内容モデル】

集合・あいさつ・注意と今日の活動説明

↓ (5分)

ボロ掃除 (馬小屋・放牧場)

↓ (30分)

ブラッシング

↓ (15分)

蹄掃除

↓ (10分)

休憩

↓ (20分)

馬装

↓ (5分)

乗馬・引き馬

↓ (35分)

後片付け

↓ (10分)

えさやり

↓ (10分)

集合・感想をきく・あいさつ

(3) 実施状況

特殊学級を対象とした事業は、スタッフが子どもたちと関わる経験を積み、習熟度を高めてからのほうが期待する効果が大きくなるであろうとの判断により、『たいよう馬の杜』事業開始後1年を経過した平成11年度から開始した。これまでの実施回数は表5の通りである。

年度ごとに実施学校や人数に違いがあるが、これは子どもたちが卒業してしまい学級の在籍人数が著しく減少したり、雨天により延期とした結果、未実施になってしまったこと等によるものである。

表5 【特殊学級での事業実施回数】

学 校 名	平成13年度		平成12年度		平成11年度	
	実施回数	対象人数	実施回数	対象人数	実施回数	対象人数
白鳥東小学校	6	5	6	6	9	5
上島東小学校	—	—	—	—	7	3
大洋中学校	—	—	3	4	—	—
合 計	6	5	9	10	16	8

(4) 子どもたちの様子

ポニーとの出会い、乗ってみる等の場面における特殊学級の子どもの様子は、通常の体験学習のときに見せる子どもたちの様子とは大差はなく、スムーズに事業を行うことができた。また、参加人数が少なく、ゆったりと活動を行える事から、一人あたりのポニーとの関わりの時間が長くなり、結果的にポニーとの関係をより深めることができている様子であった。

写真8 【蹄の裏の説明をきく】



【印象に残った子どもたちのつぶやき】

○ ポニーとの出会い

- ・大きいなあ
- ・こんにちは
- ・かわいいなあ
- ・きゃあー
- ・目が大きいなあ
- ・乗ったら楽しそうだ
- ・今日は機嫌どうかなあ？
- ・今日は上手に乗れるかなあ
- ・このポニーはオス？
- ・このポニーはおかあさん？

○ ポニーにさわると

- ・あったかいねえ
- ・きもちいいねえ
- ・フカフカするよ

- ・毛が抜けるよ
- ・うわあー
- ・あっちの馬のが柔らかいなあ
- ・よろしくね
- ・どこをさわると気持ちいいの？

○ ニンジンを与える

- ・おいしいかい？
- ・いっぱい食べるなあ
- ・こらっ、だめでしょ（横取りしようとするポニーに）
- ・もっと欲しい？
- ・よだれがついたあ
- ・こわーい
- ・手を食べるなあ

○ ブラシをかける

- ・気持ちいいかい？
- ・毛がぬけるう、気持ち悪い
- ・きれいになったかなあ？
- ・よしよし
- ・こっち向くなよ（ポニーの顔が）
- ・○○君、ちゃんとやりなよ（遊んでる友達に）
- ・メロンちゃん！（ポニーの名前を呼ぶ）

○ ボロ掃除をする

- ・くさーい
- ・きたなーい
- ・おえっ！
- ・これは俺のボロ！（友達が取ろうとして）
- ・やだー
- ・いっぱいにとってきれいにしよう
- ・これは捨てる？（馬小屋の汚れたおが屑を）
- ・早くやろう
- ・ちゃんとやってよ！（道具で遊ぶ友達に）
- ・おわったあ
- ・きれいになった
- ・つかれた

○ 蹄掃除をする

- ・難しいよ
- ・手伝ってよ！（友達に）
- ・いっぱい取れた
- ・足を動かすなあ
- ・取れないよ（つまったごみが）
- ・うわあ（ポニーが足を動かして）
- ・きれいにとれた

○ 引き馬をする

- ・ちゃんと歩いてね
- ・行っくぞお
- ・こわーい
- ・さあ、レモンちゃん歩きますよ

- ・こらっ、そっちじゃないよ
(思わぬ方向にポニーが行って)
- ・しゅっぱあーっ！
- ・こっち来ないでよ！(引いている自分の方に)

○ ポニーに乗るのを待つ

- ・○○君、楽しい？(乗っている人に)
- ・早く乗りたいなあ
- ・あっちに行っていていい？(興味のある自動販売機に)
- ・あー、負けてしまった。もうだめだ！
(乗る順番を決めるじゃんけんで負けたので)
- ・つぎ僕だよ。
- ・こわいかあ
- ・メロンちゃん！ オレンジちゃん！(名前を呼ぶ)
- ・今日は手を離して乗るよ

○ ポニーに乗ってみる

- ・うわあ！
- ・たかーい
- ・気持ちいい
- ・きゃー
- ・こわいよお
- ・動いちゃやだ
- ・もっと早く歩いて！
- ・○○ちゃん、気持ちいいよ。
- ・速歩するの？
- ・落っこちそうだよ(揺れを感じて)

○ 送迎のワゴン車の中で(行き)

- ・今日は誰に乗るのかなあ
- ・いい天気よ良かったね
- ・僕は今日、手を離して乗るんだ
- ・この前行ってきたんだよ
(施設のある『とっぷ・さんて大洋』に)
- ・かわいそうだから、朝ご飯を少しにしたよ！
(ポニーに乗るとき自分が少しでも軽いようにと)
- ・私は、今日をずっと楽しみにしていました
- ・チェリーは大きくなった？(産まれた子馬に)
- ・怖いかなあ

○ 送迎のワゴン車の中で(帰り)

- ・あー、楽しかった
- ・いっぱいニンジン食べさせたよ
- ・また乗りたいなあ
- ・気持ちよかった
- ・ポロ取りの絵を描くよ
- ・今日の給食何かなあ

(5) 工夫したこと

【スタッフの関わりと準備】

ポロ取り等の活動時は、最初に道具などの使い方を実際

に見せながら説明するだけに留め、子ども達の動作に必要な以上に介入することは避け、なるべく自分たちの力でその作業を完了させる場面をつくるように心がけた。その際、スタッフは常に子どもたちの言葉を聞くことができる場所にいるようにし、子どもたちの質問等には素早く反応できるようにした。学級の先生については、子ども達と同じ作業を体験してもらい、表情やつぶやき等を観察してもらった。

対象となった特殊学級の子どもたちは、身体的な障害はもっていなかったため、施設においてバリアフリー的な準備は特に必要としなかった。

【子どもたちの意思】

活動内容については、基本的に前出のモデルに基づいたものであったが、子どもたちが「○○をしてみたい」という発言をしたときには極力それを実現するよう配慮した。

【具体例1】

ポロ取り作業中、馬小屋に敷いているおが屑が少なくなっているのを見て、「おが屑を足してあげたい」と発言。

対 応 ⇒ 軽自動車の荷台に子どもたちを乗せて、おが屑を取りに行き、自分たちで馬小屋にまいて平らにならせた。

いつものポロ取り作業より、大きな達成感と充実感がある様子であった。

【具体例2】

ワゴン車で施設に向かう途中、「今日は天気が良くてきもちいいなあ。海に行ったら楽しいだろうなあ」と発言。

対 応 ⇒ ポロ取りの作業終了後、ポニーを連れて海に行き砂浜で引き馬と乗馬を行った。

「楽しい」「気持ちいい」という強いイメージが残ったようである。

【休憩時間】

毎回3時間程度と、かなりの長時間に及ぶ活動であったので途中に20分程度の休憩を入れるようにした。

この時間は、子どもたちが持ってきた飲み物と持ち寄ったお菓子を食べる時間となり、子どもたちはリラックスした雰囲気の中で自分が感じたことやしてみたいことを発言する場となった。また、スタッフも席を共にすることで子どもたちとのコミュニケーションを深めるのに役立てた。

(6) 報告された子どもの変化

事業後、担任の先生から寄せられた感想は、「明るい笑顔で活動している」、「積極的に行動している」というように、学校での日常の場面よりも生き生きとした表情を見せ

ているというものが多かった。

また、事業後子どもたちの様子に以下のような変化が見られたとの報告があった。

- ・初回の事業から楽しく活動することができたらしく、不登校の子は、「ポニー活動のある日なら来るよ」と発言し、その日は自ら登校できるようになった。
- ・他の学習時間では、活動に参加しようとしなかったことが多かったが、ポニースタッフに指示された活動はきちんとできており、対人の壁があまり感じられなかった。
- ・「今、ポニーはどうしているかな？」と学校で気にすることが多くなった。
- ・授業中に文字を自分から書こうとしなかった子が、ノートにいつの間にか「ポニー」という文字を書いていた。
- ・ポニー活動の様子を絵や作文で、表現力が豊かになっているようだ。
- ・海に行って乗馬したことが非常に印象深かったらしく、そのことをよく話している。
- ・ポニーの体重を質問して聞いた結果、重さのイメージがわきやすくなったようだ。

(7) スタッフの感想

特殊学級の子どもたちとは重点的に関わったことと、休憩時間をはじめとしてコミュニケーションを図る場面が多かったことから子どもたちの意思や気持ちの変化を強く感じることができた。そのせいか他の事業よりも充実した指導が行えた。

印象深かったのは、小学校の時に2年間事業を経験し、卒業していった男子と、ポニーを中学校に連れていった体験学習において再会したとき、彼が、「私は小学校でポニーをやったことが大変楽しかった。こうしてまたポニーと逢

絵1 【彼が小学校時代に描いた絵】



平成12年12月作成
芝生の上でポニーを引くスタッフと、よこにいる自分を描いていると思われる

えてすごく嬉しい」とポニーをなでながらしっかりと口調で語っていたことである。

その様子から、ポニーと過ごした時間が、非常によいイメージで彼の記憶に残されていることを感じ、彼らにとってインパクトのある時間であったことを再認識した。

(8) 今後の課題

体験学習における課題と同様、活動内容の一層の充実とスタッフのスキル向上はもちろんのことである。一方で、参加している子どもたちの対人関係や、コミュニケーション能力の改善という部分で効果を求める場合には、ある程度まとまった人数の中での活動が望ましい。しかし、現状の1校ごとの事業は、対象となる人数がもともと少ないがためその部分での効果はあまり期待できないといえる。また、在籍人数の状況によっては、事業の継続も困難になる可能性がある。

これらのことから今後は複数校の特殊学級事業を同時に実施することも今後検討していく必要があるといえる。

8 白鳥東小学校こころの教室・学び方教室

前項で報告した、特殊学級のポニー事業実施校のうち、初年度である平成11年度から継続して事業を行うことができたのが白鳥東小学校である。

この学級の児童たちは過去3年間にわたりポニーと継続的に関わり、その成長を見てくることができた。

(1) 在籍児童の特徴

在籍していたのは、自閉的傾向3人、場面緘黙1人、学習障害2人の計6人の児童で、異学年である。

知的発達の状態としては、中度から軽度の遅れが見られ、対人関係や社会性の障害、言語やコミュニケーションにおける障害、興味の限局性や執着的行動も併せ持っていた。

表5 【児童の実態】

学年	名前	実態と活動の実施期間
4年	A子	こころの教室、自閉的傾向 平成11年度から3年間
6年	B男	学び方教室（平成11・12年度は心の教室） 平成11年度から3年間
6年	C男	学び方教室 平成12年度から2年間
6年	D子	こころの教室、緘黙 平成11年度から3年間
6年	E子	こころの教室、自閉的傾向 平成11年度から3年間
中学1年	F男	こころの教室、自閉的傾向 平成11年度から2年間

※ F男については、平成13年3月に小学校卒業

(2) 実施回数

毎年、1学期と2学期を中心とする期間で月1回実施を目標にこれまで21回の事業を行ってきた。実施予定は、白鳥東小学校の体験学習の予定案に含め、年度当初に年間計画をたてている。

○平成13年度

- ・在籍児童：A子、B男、C男、D子、E子（計5名）
- ・実施日：5月11日、6月11日、7月17日、10月26日、11月22日、12月18日（計6回）

○平成12年度

- ・在籍児童：A子、B男、C男、D子、E子、F男（計6名）
- ・実施日：4月8日、5月19日、6月20日、10月18日、11月9日、12月15日（計6回）

○平成11年度

- ・在籍児童：A子、B男、D子、E子、F男（計5名）
- ・実施日：5月11日、5月15日、6月5日、7月3日、10月2日、11月6日、12月4日、1月12日、2月5日（計9回）

(3) 活動の内容

活動のスタイルとしては、スタッフが用意したワゴン車で朝学校まで迎えに行き『たいよう馬の杜』へ向かう。施設で特殊学級の活動内容モデルと同様の活動を行い、昼の給食前までに学校に送り返すというものである。

【活動予定】

8時30分	学校昇降口集合
8時40分	学校出発
8時45分	たいよう馬の杜到着
8時50分	体験学習開始
	↓ 特殊学級・活動内容モデルに準じた活動
11時40分	体験学習終了
11時45分	たいよう馬の杜出発
11時50分	学校到着

※学校と施設の往復は、スタッフがワゴンを運転する。

(4) 活動時の様子

【スタッフと会う】

- ・スタッフと顔を合わせたときに自発的に、「おはよう」、「今日お願いします」とあいさつをしてくる。
- ・楽しみにしていた様子であり、早くポニーにあいたいよなそぶりを見せる。
- ・「今日は天気がよくてよかった」など、その日活動できることを喜んでいる。

A子のつぶやき

ポニー、ポニー！、よろしくおねがいします、私は、○○

○です（自己紹介をする）

B男のつぶやき

○○先生おはようございます（スタッフに対して）

C男のつぶやき

早く行こう

E子のつぶやき

チェリーちゃん大きくなったかなあ（子馬のこと）、おはよう先生（スタッフに）

F男のつぶやき

私はすごく楽しみにしていました、早くポニーに乗りたいです

【施設に向かう車内】

- ・今日やりたい活動や、気になっているポニーのことを各自活発に話す。
- ・先生が彼らの会話に加わり、さらに話題が弾むと同時に、活動の注意を確認しあう。
- ・「暑い」、「寒い」というようにその日の天気具合や学校で流行っていることなどをいろいろ話す。

A子のつぶやき

うわあ、いい天気！

C男のつぶやき

俺、今日は手を離して乗るよ、今日は、スポーツドリンク持ってきたんだ

D子のつぶやき

チェリーちゃん元気かなあ、ポニーどうしてるかなあ

F男のつぶやき

私は、ボロ掃除を一生懸命やります、ん〜♪（アニメの主題歌を鼻歌で歌っている）

【あいさつ・作業の説明】

- ・集合して話をきく。A子は違う場面に興味をもっていている様子。
- ・作業の説明をするとき「はい」と返事をし、内容を思い出している様子。
- ・みんながそろると、「私は、○○○です。よろしくおねがいします」と、自己紹介になってしまうときがある。（一番最初の事業で自己紹介をした影響か）

A子のつぶやき

よろしくおねがいします、私は、○○○です（自己紹介をする）

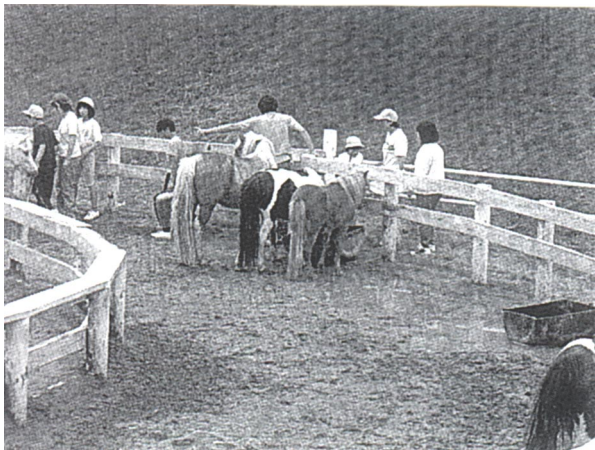
B男のつぶやき

まず、ボロ掃除からするんだよ

C男のつぶやき

早くやろう

写真9 【説明が終わり丸馬場に入る児童たち】



【ボロ取り】

- ・掃除の際に、尿のにおいやボロを敬遠する言葉がでてるが、活動そのものはきちんと行う。
- ・男子グループ、女子グループに自然と分かれて活動しているが、A子、F男の作業に対する集中が持続しにくい。
- ・熊手、てみ、ビニール袋の3つの道具を用いた活動であるが、自分たちなりに分業しようとしたり、効率のよい作業の進め方をしようと努力する姿勢も見られる。しかし、熊手を持っている児童は、ボロを飛ばして遊んだりしやすい。
- ・B男、C男は非常に積極的に作業を行っている。D子、E子は静かに、しかし確実に作業を進める。
- ・F男は作業に嫌悪を示し、「やだっ」と言い、何も作業ができなくなる時もあった。
- ・A子は作業をやめてしまい、自分の好きな場所に行く。

A子のつぶやき

うわぁ、こんなにたくさん（ボロを見て）、掃除しましょ、よいしょ、よいしょ、きたなーい、やだー（熊手を離して）

B男のつぶやき

うわぁ、いっぱいしてんなぁ、これは俺のボロだよ、端のほうにいっぱい落ちてるなぁ

C男のつぶやき

俺やるよ（終わってない馬小屋の掃除を）、うわっ、柔らかい、気色わりい、オガ掘ったらボロが出てきた

D子のつぶやき

ここにも落ちてるよ、きれいにしよう

E子のつぶやき

いっぱいしてるなぁ、きれいにしましょね、くさっここが汚い、〇〇君、ボロ踏んでるっ

F男のつぶやき

そっちの道具がいい（友達の使っている道具を見て）、早くポニーに乗りなぁ、まだ終わらない、おえっ

【ブラッシング】

- ・みんなが楽しそうに、リラックスした状態でブラシをかけている。肌触りを楽しんで、抱きついたりしている。
- ・お気に入りのポニーに向かって「気持ちいいかい」と語りかけている。
- ・「お腹のほうもやるの」、「お尻のほうもやるの」とスタッフに聞いてくる。
- ・「毛が抜けるなぁ」、「ホコリがいっぱい出るなぁ」とその様子を言葉にして発している。
- ・D子はポニーの顔がやや怖いらしく、友達と一緒にないとブラシをかけようとしない。
- ・A子、F男ともこの作業は比較的続けられる。いい笑顔を見せる。

A子のつぶやき

レモンちゃん（ポニーの名前を呼ぶ）、きれいにしましょ

C男のつぶやき

はぁ、気持ちいい（ポニーに顔をつけて）、ほらっ、いっぱい出るよ（ホコリを叩き出して）、動いちゃうよ（ポニーが）ここはどうブラシかけるの（毛並みが変わる場所で）

D子のつぶやき

こわいよう、そっちに行きたくない（ポニーの顔の方へ）

E子のつぶやき

きれいにしましょね、こらー、動いちゃ駄目でしょ、よしよし

F男のつぶやき

あったかーい、僕はあっちのポニーのほうが好きです

写真10 【ブラッシング風景】



【蹄掃除】

- ・比較的難しい作業。B男、C男は積極的にやろうとするし、できない友達がいると自分と交代することを申し出たり手伝おうとしている。
- ・A子はほとんど興味を示さない。
- ・F男は作業はするが、少してこずると自分でやめてしまう。

- D子はスタッフが介入すれば作業ができるが、一人で怖がって脚を持つとはしない。
- E子は自分のペースで仕事ができる。また、ポニーが脚を動かして抵抗すると、「こらっ」というように叱る。

B男のつぶやき

いっぱい詰まってるなあ、これはとりにくいよ、僕がやるよ（脚が上がらない友達に）

C男のつぶやき

うわぁ、脚動かすなよ（ポニーに）、重いなあ（脚が）、終わったよ

D子のつぶやき

こわい、これでいいの（スタッフにやる所を見せて）

E子のつぶやき

こらっ、脚あげろ、だめでしょ（脚を上げるのを抵抗するポニーに）、はぁ、いっぱい取れた

F男のつぶやき

はぁ、くたびれた、早くポニーに乗りなあ

【休憩時間】

- 家から持ってきた飲み物と持ち寄ったお菓子を食べながら、リラックスした状態で会話をしている。
- 「今日は何に乗るかな」とその後乗馬することを楽しみにしている
- 行儀の悪い食べ方をしている人に先生が注意したり、スタッフが学校で何が流行ってるかなど話かける。

A子のつぶやき

いただきます、おいしかった

B男のつぶやき

手を離して乗りたいなあ

C男のつぶやき

速歩いっぱいしようよ、これ食べていい（残っていたお菓子を）、今日はこれもってきたんだ（飲み物を取り出して）

D子のつぶやき

天気がよくてあったかくていい

E子のつぶやき

チェリー大きくなったねえ

F男のつぶやき

次乗るんですか

【引き馬】

- 各自交代しながら引き馬の練習をする。
- B男、C男は先を争ってやろうとする。E子も積極的に引き綱を持って歩かせることができる。3人とも上手。
- A子、F男は引き馬することは比較的気に入っているようだが、最後まで綱を持っていて次の人に渡すことができない。止まる場所に来るとすーっと手を離してしまい、自分の行きたいところに行ってしまう。

- D子は引き馬は上手にできるのだが、一人でいることが不安な様子。そばにスタッフがいないと動こうとしない。

A子のつぶやき

いくよー、レモンちゃん（ポニーを呼ぶ）、わぁ、歩いてるよぉ

B男のつぶやき

走りたいなあ、僕がやるよ（引き馬を最初にする人を選ぶとき）、こら、ちゃんと歩けよ（急にポニーが止まって）

C男のつぶやき

それえ（走り出しながら）、次僕がやるんだよ（順番を待つとき）

D子のつぶやき

こっち向かないでね（ポニーが）、嘸まないかなあ、大丈夫かなあ

E子のつぶやき

ほらっ、歩け、行きますよ、ちゃんと歩きなさいね

F男のつぶやき

うわぁ、歩いています、どこで止まるんですか

【馬に乗るのを待つ】

- ブラッシングをしたり引き馬をしたりして自分の順番を待つ。しかし、地面に落ちている石等で遊んでしまうときもある。
- F男は乗る順番にこだわりがあるらしく、最初に乗ることを希望する。しかし、じゃんけんで決めた結果後のほうになってしまうと落ち込んでしまう。
- A子も乗ることにに対して積極的。一番は誰にするか決める前に、「はいっ」と手を上げるときがある。
- E子は順番にさほどこだわりはないらしく、「後でいい」と言うときもある。
- その他の児童については、馬場の柵に座ったり、友達が乗る様子を眺めたり、言われた活動をして待つことができる。

A子のつぶやき

〇〇ちゃんが乗る（自分が一番に乗ると言う）

B男のつぶやき

早く乗りたいなあ、乗り心地はどう（乗っている人に）

C男のつぶやき

〇〇君、楽しい（乗っている人に）、僕、速歩をいっぱいしたいなあ、僕はもっと速く歩かせていいよ（スタッフに注文）

E子のつぶやき

先に乗っていいよ（順番を友達に譲る）

F男のつぶやき

あぁー、負けてしまった（順番決めて一番になれず）、もう、だめです（ 〃 ）、乗りたいありません（ 〃 ）、一番に乗れていいなあ

【乗馬】

- 全員楽しそうに、明るい笑顔で乗っている。最初は鞍の前部についているハンドルを握るが、慣れるにつれそこから手を離したり、目をつぶって乗る。また、速歩を入れる。
- B男、C男とも普段は非常に活発だが、馬に乗ると言葉が少なくなる時がある。また、そういう時はスタッフの指示が伝わりやすい。
- A子は乗った瞬間に早く歩いて欲しいそぶりを見せ、体を揺する。とてもいい笑顔を見せる。
- F男は乗ると多少緊張する様子を見せるが、不快ではない様子。慣れてくるにつれて言葉が出たり、鼻歌を歌ったりする。
- D子は、スタッフがそばにいたのでスムーズにポニー乗れるが、自分がポニーに対して恐怖心を言葉で伝える。
- E子は、きわめて真面目な表情で馬に乗っている。集中しておりスタッフの指示にすぐ反応する。ただ、少し照れがあるようで、「上手だねえ」とスタッフが言うとかえって姿勢が前傾して体の力を抜いてしまう。
- 速歩を入れると、「きゃー」、「うわぁ」というような叫びが大きくなるがバランスそのものが大きく崩れることはない。
- B男、C男は速歩ではもっとスピードを上げるのを要求してくる。また、お互いを意識しているらしく目をつぶったり、手を離したりするのを相手がすれば、自分も必ずやろうとする。
- A子は速歩になるとさらに叫びを上げる。しかし、顔は笑顔であり楽しんでいる様子。手を離したりするのは好きではないらしく、その姿勢を持続できるバランスはあるがすぐにやめてしまう。
- B男、C男、D子の姿勢とバランス感覚はみんなの中で優れている。特にD子は「怖い」とは言うものの、非常に姿勢が安定しており見ていて不安がない。
- E子は、手を離す姿勢も非常に恥ずかしらしくすぐにその姿勢をやめてしまう。
- F男は乗馬中あれこれ活動するのは好きではない。自分の好きな姿勢をいろいろ試す。また普段はよく話すのだが、言葉がほとんど出なくなるときがある。

A子のつぶやき

きゃー、行くよー、楽しい、落ちるぅー

B男のつぶやき

気持ちいい、うわぁ、揺れるぅ、それっ、もっと走れ（速歩時）、あぁ、落ちちゃうよ（〃）

C男のつぶやき

すごいや、手を離していい、これも出来るよ（手を離す）、速歩にしている

D子のつぶやき

こわい、ゆっくり歩いてね、速歩はしなくていい

E子のつぶやき

はぁー、乗ったよ、よしよし、歩け歩け、行けえ（速歩時）

F男のつぶやき

やっと乗れました、ん〜♪（鼻歌）、速歩はしますか

【えさやり】

- 乗ったポニーやブラシをかけたポニーたちを中心に自分の好きなポニーににんじんをやる。
- 最初のうちは怖がってあげられなかったり、ポニーが口いっぱいになってしまい食べられない状態なのにさらに食べさせようとしていた。徐々に上手にあげられるようになる。
- A子は「きゃー」と叫びながらも上手にあげることができる。また徐々に叫びも減る。
- B男、C男とも上手に食べさせることができる。手に持ったニンジンがなくなるとさらにニンジンをあげたいと要求する。
- D子は当初は食べさせることが出来なかったが、友達やスタッフの姿を見て、徐々にできるようになる。しかし、「こわい」と時々ささやく。
- E子は多少乱暴な言葉遣いになっているときがあるが、仕草そのものはいいにできる。
- F男はポニーの口の感触に驚きがある。感じたことを言葉にする。

A子のつぶやき

きゃー、うわぁ、くすぐったいよ、レモンちゃん（ポニーを呼ぶ）

B男のつぶやき

でっかい口だなぁ、はぁ、終わっちゃった（ニンジンがなくなると）、あっちのポニーにもあげていい

C男のつぶやき

きゃは、くすぐったいよ、うわぁよだれ、もうおわたたよ、給食何かな、もっとやっていい、ニンジンちょうだい

E子のつぶやき

ほらっ食べる、おいしいかい、よだれー、手まで食べんなよ、こらっもっと食べる

F男のつぶやき

あぁよだれがついた、うわぁ、あぁー、なめられてしまいました

【学校へ向かう車内】

- みんな今日の活動で印象的だったことを話し合う。行き車内よりも会話は活発。
- 学校の給食を楽しみにしている様子。
- 次回を楽しみにしているような言葉もでる。

A子のつぶやき

いっぱいニンジンあげたよ、かわいかった

B男のつぶやき

楽しかった、また来月だね

C男のつぶやき

今日の給食は〇〇だよ

E子のつぶやき

チェリーちゃん大きくなってねえ

F男のつぶやき

あぁ、終わってしまいました、次回もがんばります

表6 【全体を通した児童の様子】

名前	活動の様子
A子	当初はスタッフ等の指示が通りにくい場面も見られたが、彼女なりにポニーとの時間を楽しんでいるようである。また、各種作業はあまり大事でないらしく、ポニーそのものに興味がいってしまい、ポニーのそばでたたずんでいる場面もしばしば見られた。 彼女にとり一番大事なのは乗ることであり、その時間は非常に生き生きとした表情見せ、スタッフの指示にもよく従っていた。自分から、「〇〇したいの」というようにスタッフに語りかけてくる場面も見られた。
B男	すべての作業を積極的に行っており、作業を進行する上で中心となる児童。ポロ取り、引き馬など率先して行い、手順を覚えることも早かった。 しかし、道具を扱う作業の時にはそれで遊んでしまったり、ポニーが嫌がるような行動をして、その反応を試しているかのような場面も見られた。また、思うように作業が出来ないと若干パニック気味になるようなところもあった。乗ることも上手であるが、C男に対してライバル心があるらしく常に相手の少し上の行動をとろうとしていた。
C男	ポニーに関することをよく質問し、その特性を理解しようとしているのが印象的。作業は素早く、一生懸命やるが雑なときもある。また、早く終わらせて先に休んでしまうときもある。 体を動かすことが好きなので、暇を見つけては施設にある芝生の斜面を滑って遊んでいた。 乗るときは集中しており、スタッフの指示に従おうとする姿勢が見て取れ、実際上手に出来ていた。活発な性格からか、速歩が非常に好きであり、そのスピード感を楽しんでいると同時に、更なる速さを求めているようなところもあった。
D子	おとなしい児童であり、すべての作業を慎重に行っている。当初はスタッフに対してほとんど話さなかったが、徐々に自分の気持ちを伝えようと語りかけてくる場面が見られるようになった。 ポニーに対しての恐怖が、特に顔に対してあるようで、そばに寄るのはスタッフがいないと出来なかったり、さわったり乗ったりするときも「こわい」と話すことが多かった。 しかし、乗馬の際の姿勢は非常に安定しており、バランスを崩すようなことがなかったので女子の中では最も難度の高い活動が出来ていた。

E子	当初からスタッフとのコミュニケーションを多くとることが可能で、自分の気持ちやポニーに対しての欲求を言葉にしていた。 ポニーの性別に興味があるようで、「これはオス」、「これはメス」と体の違いを目で確認しながらみんなに伝えていた。その延長からか、子馬に対しての思い入れも深いようで車内での話題によくのぼり、また世話もよくしていた。 6人の中では体格が恵まれていたので、しっかりと乗ることが出来ていたが、スタッフの指示に対する「照れ」の気持ちが邪魔をしていた。
F男	感情のバランスがやや激しく、気持ちがのっているときはよく作業をしてくれるが、そうでないときはほとんどできなくなってしまう。 ポニーを好きなようで、やさしい口調で語りかける場面がよく見られ、乗っているときも落ち着いた表情を見せることが多かった。ただ乗る順番には強いこだわりがあるらしく、 自分の世界があるようで、鼻歌を歌って気持ちよさそうにしているときがある一方、乗っているときは何かに集中しているかのように、何も声を発しなくなる場面がしばしば見られた。

(5) 工夫したこと

【乗馬の指導】

事業を数年度にわたって実施することが予想されたことから、乗馬指導の目標は、「一人で乗ることが出来る」ということに設定し、長期的展望で指導にあたった。

引き馬による乗馬に始まり、手を離して乗ること、目をつぶって乗ること、馬の上で体操をすることを反復して練習し、バランス感覚を養うことを最初に行った。これを2年間にわたり継続して行った結果、馬への恐怖心よりも、乗馬することの楽しさ、自信の気持ちの方が勝ってきた様子が見られるようになったので、調馬索による乗馬でスタッフによる手助けと児童の距離を徐々に遠ざけ、平成13年度の後半の事業では全員が一人で乗馬し、速歩発進まで出来るようになった。

【ポニーの使い分け】

1回の事業について2頭のポニーに乗り、それぞれのポニーでの活動目的を分けた。1頭は比較的小さなサイズのポニーとし、児童がしたいと思う乗り方をさせるようにし、スタッフからの働きかけは抑えるようにした。もう1頭は最も体高のあるメロンを使用し、スタッフからの乗馬的指導を中心に行う時間とした。

【D子への指導】

事業当初からポニーに対して「こわい」と発言すること

が多く、ブラッシング、引き馬等、直接ポニーと関わる活動に対しては消極的な姿勢が見られた。

そのため、彼女がポニーと関わる時にはそばにスタッフか先生がいるよう努め、そのちいさなささやきをひろえるよう心がけた。スタッフがいれば、「こわい」発言も減り、活動も上手に出来たので、乗ることの上達も早かった。

しかし、年度が終了し、新年度の事業が始まるといったように、数ヶ月にわたりポニーと接しない期間があると再び「こわい」と言うように気持ちが逆戻りしてしまうため、その際はゆっくりと今までに出来たことを繰り返し指導し、その恐怖心をほぐす事に努めた。

写真 11 【成長したチェリー】



施設に遊びに来た園児ににんじんをもらう

【子馬の誕生】

事業開始年の平成11年7月31日、飼育していたアプリコットが子馬を産んだことは、この事業を進めることで非常にプラスに作用した。

児童たちは子馬の成長を楽しみにしており、毎回少しずつたくましくなっていくチェリーの姿をよく観察していた。男子の児童にとってはよい遊び相手であり丸馬場の中で一緒に走り回り、女子にとってはより「かわいいがる」という行為をしやすい存在になっていた。

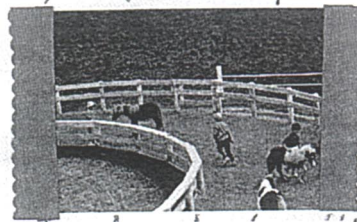
産まれてまもなくから、子どもたちに容赦なくさわられることでチェリーにとっても子どもと関わるポニーとして資質が向上したように感じた。

(6) スタッフが感じたこと

馬に対する「こわい」という気持ちに個人差はあったものの、参加した児童たちは全員ポニーと過ごす時間の快さを感じつつ、自分がしたいこと、自分の今の気持ちを表現していたようである。それは、スタッフに気軽に声をかけ、自分が活動する様子を見せようとアピールしたり、移動の車や休憩時間の会話で生き生きと話をしている様子から見

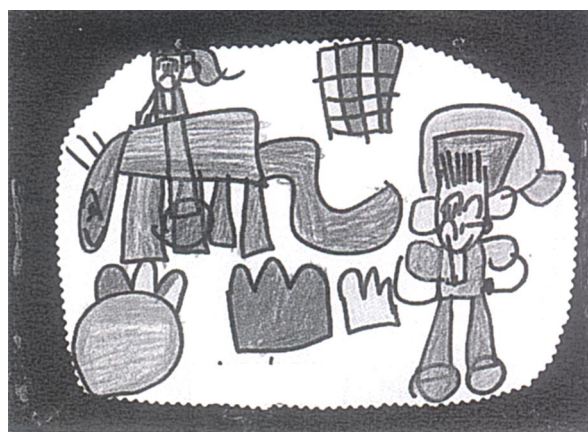
絵 2 【A子の描いた絵】

こわいのせんせい



平成12年12月作成

大きく自分とスタッフが書かれている

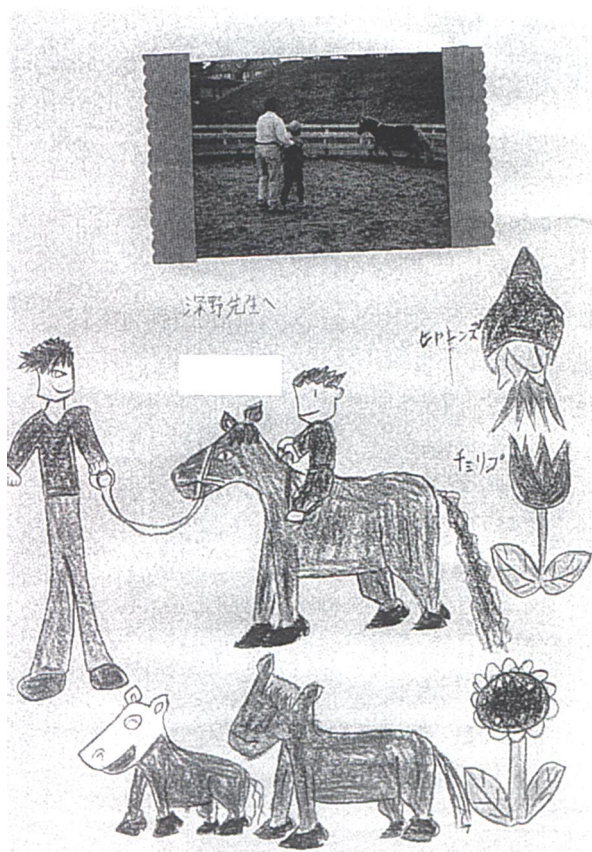


平成13年12月作成

場所の様子が加わり、描きたいものの線がはっきりしたて取れた。

また、毎年度の最終活動の時間に児童たちからメッセージと絵のプレゼントをもらうのだが、その絵で描写された活動の様子から、1年を経た児童の表現力が確実に増していることを感じた。

絵3 【B男の描いた絵】



平成12年12月作成

ポニーに乗った自分とそれを引くスタッフ、
周りのポニーが書かれている



平成13年12月作成

手を離して乗る自分が描かれている。ポニーの脚部の
表現が豊かになっている

(7) 今後の課題

3年間の実践を通じ、(1)当初しり込みする様子が見られた子どもたちが、徐々にしかし確実に積極的かつ意欲的にポニーのいる場所にやってくるようになり、作業や乗馬に積極的に取り組んだり子どもが自ら活動を工夫していく変化が見られた、(2)話し言葉だけではなく作文や絵画などにおいても、表現を引き出し育てる大きな素材(活動)となった、(3)ポニーが媒介となってスタッフとの関係が強く形成されていった様子が絵からわかる、(4)子どもたちにとってポニーに乗ることは作業を含む全体の活動の一部として捉えられている、などのことが言える。ただ、ポニーとの触れ合いを通じてこれら培われたことをどのような方法で評価するか、また継続的な展開をどのように工夫したらよいかについては今後の課題である。

最大6名と小集団での活動ではあったが、児童の実態が幅広かったために、全員で同じ作業をするという活動形態が最善であったかは疑問が残る。今後はもう少し個別的な働きかけも考えなければならない。しかし、在籍児童のうち4人が3月で卒業してしまい、来年度に残るのは1人だけになってしまうことから、現在の白鳥東小学校だけによる実施の形も見直さなければならない。複数校の同時実施を含め、次年度に向けた方針づくりが求められている。

また、卒業し大洋中学校に進学していく児童が多いことから、何らかの形で特殊学級の体験事業を継続して実施できるように、各校との連携を図っていくことも重要である。